

資源高、円安により足踏みが続く日銀短観

ポイント① 大企業・製造業は3四半期連続悪化

10月3日に発表された9月調査の日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）によれば、大企業・製造業の業況判断DI（デフュージョン・インデックス、景況感が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」の割合を引いた値）は、前回6月調査を1ポイント下回り、3四半期連続の悪化となりました。対して大企業・非製造業は、前回同調査を1ポイント上回り2四半期連続の改善となりました。

ポイント② 資源高と円安が下押し材料に

資源高と円安を背景とした仕入価格の上昇が、大企業・製造業の景況感を下押ししました。ただし、円安は輸出企業にとって追い風となることや、資源高を販売価格に価格転嫁する動きも進んでいることから、先行きは1ポイントの小幅改善を見込んでいます。大企業・非製造業の景況感は、通信、物品・賃貸、建設、不動産などの改善がけん引しました。

ポイント③ 設備投資計画は過去最高を更新

2022年度の設備投資計画は、全規模・全産業で前年度比+16.4%となり、前回6月調査の同+14.1%から上方修正され、1983年の調査開始以来、9月時点の水準として過去最高の伸びとなりました。コロナ禍で先送りされた、脱炭素やデジタル化などに向けた投資計画が本格的に再開される見通しです。しかし、ロシア・ウクライナ問題を始めた海外の景気悪化懸念や、為替レートの変動によっては、設備投資計画がその通りに実行されない懸念も残ります。

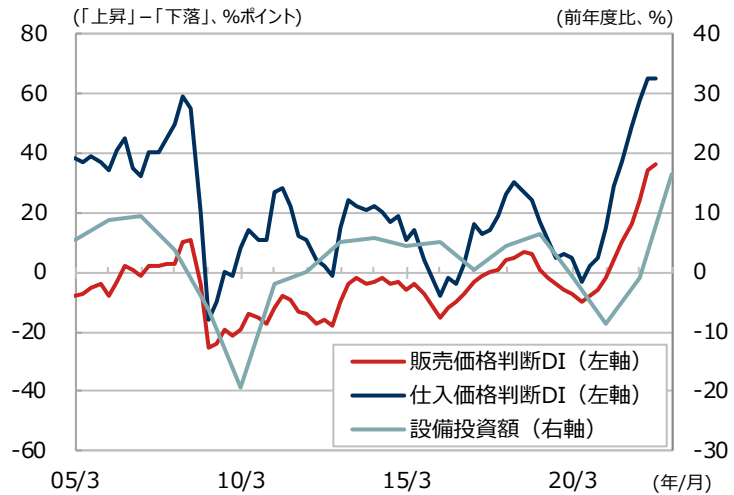
業況判断DI

		（「良い」-「悪い」、%ポイント）				
		2022年 6月調査	2022年9月調査			
			最近	変化幅	先行き	変化幅
大企業	製造業	9	8	-1	9	1
	非製造業	13	14	1	11	-3
	全産業	11	11	0	11	0
中堅企業	製造業	0	0	0	-4	-4
	非製造業	6	7	1	2	-5
	全産業	3	4	1	0	-4
中小企業	製造業	-4	-4	0	-5	-1
	非製造業	-1	2	3	-3	-5
	全産業	-2	0	2	-4	-4
全規模	製造業	1	0	-1	-1	-1
	非製造業	4	5	1	1	-4
	全産業	2	3	1	1	-2

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2022年6月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」との比較。

（出所）日銀「短観」（2022年9月調査）より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2209.htm/>)

販売・仕入価格判断DI（大企業製造業）と設備投資額（全規模・全産業）の推移



（期間）DI：2005年3月調査～2022年9月調査、四半期
設備投資額：2004年度～2022年度、年次

（注1） 設備投資額の2022年度は計画値。

（注2） 設備投資額は金融機関を除く。また、土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

（出所）Bloomberg、日本銀行のデータより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
10月20日 貿易収支（9月）
10月21日 全国消費者物価指数（9月）